

私見 卓見

日本語学習、官民で魅力PRを

一般社団法人・日本国際教育協会会長 大出 隆

ワシントンDC日米協会が1992年に始めた「ジャパンプォウル大会」は、全米の高校生を対象に日本語能力や日本についての知識を競うクイズ大会である。2016年から世界各国に広がり、イタリア、フランス、デンマークやメキシコ、中国など12カ国で開催されている。毎年1000人以上の日本語学習者が参加する。

一般社団法人の日本国際教育協会は、世界に広がるジャパンプォウル大会の開催を支援し、次世代の日本語、日本文化の理解者を育成するためにワシントンDC日米協会の後押しで18年に設立された。今般、初の試みとして「ジャパンプォウル世界大会エキシビション2021」を7月11日に開催する。新型コロナウイルス流行を受けて

オンラインでの開催となるが、先述の国々を中心に約50人が参加予定である。クイズ大会のほか、茶道と書道のワークショップも設けて日本文化を体験してもらい、各国参加者との交流機会も持つ。

2000年代以降、各国で中国政府の教育機関「孔子学院」による活動が活発化し、米国でも多くの高校や大学で孔子学院の支援を受けた中国語教室が導入された。アル・ゴア元副大統領らを輩出したワシントン市の名門寄宿学校も、1980年代に開始された日本語クラスが中国語に置き換わった。同校で日本語を教えていた先生に話を聞いたことがある。「日本語を学ぶ子供はアニメ、マンガやすしなど日本文化に興味を持ち自ら学ぶ意思を持っているが、中

国語は親が習わせている」という。語学は時の情勢に左右される。

少子高齢化の進むわが国は今後、多くの分野で海外の高度な能力を有する人材に頼る必要がある。そうした人材確保は国家レベルの獲得競争に入っている。

2019年に施行された日本語教育推進法は、海外での日本語教育の重要性も基本理念に盛り込んでいる。海外で日本語教育の充実が図られることが期待される。

一方で、外務省が展開している日本文化の発信事業などにより、日本に魅力を感じた外国人に「日本語を学びたい」と思ってもらえる環境を各地でつくることが望まれる。官民が協力して知恵を絞る必要がある。ジャパンプォウルがその一助になれば幸いである。

当欄は投稿や寄稿を通じて読者の参考になる
意見を紹介いたします。〒100-8066東京都
千代田区大手町1-3-7日本経済新聞社東京
本社「私見卓見」係またはkaisetsu@nex.nik

kei.comまで。原則1000字程度。住所、氏
名、年齢、職業、電話番号を明記。添付ファイ
ルはご遠慮下さい。趣旨は変えずに手を加える
ことがあります。電子版にも掲載します。